

## 2007-08 年度の年間カリキュラム報告

ーアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育ー

松本 隆

### 1 はじめに

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターは、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々に、中上級レベルの日本語を集中的に指導する教育機関である。

当センターでは、40 週間におよぶ年間コースと、6 週間の夏期コースの、2 種類の日本語プログラムを実施している。2007-08 年度の年間コースの学生は 45 名、それに続く 2008 年 6 月から 8 月の夏期コース学生数は 35 名であった。本稿では前者 40 週間の「レギュラーコース」で実施した教育内容を報告する。

### 2 レギュラーコースの概観 (40-Week Intensive Program)

2007 年 9 月 3 日から翌 2008 年 6 月 6 日までの 40 週間にわたってレギュラーコースを実施した。本コースは 4 つの学期からなり、9 月開始から 10 月末の秋休みまでを第 1 学期、11 月から 12 月の冬休みまでを第 2 学期、翌新年 1 月から 3 月の春休みまでを第 3 学期、そして春休み明け以降コース終了までを第 4 学期とし、1～2 学期をまとめて前期と呼び、3～4 学期を後期と呼んでいる (表 1～4 参照)。

授業は月曜日から金曜日まで、午前は 50 分間授業を 2 コマ (途中 10 分間休憩)、昼食をはさみ午後は 90 分間授業を 1 コマおこなった。ただし水曜日の午後は、従来からクラス授業を行わず、ゆとりをもたせてある。

午前と午後の授業の違いを端的にいうなら、午前は日本語の構造や知識に関する言語形式面を重視し、午後は聴読解や発話など言語運用の技能を伸ばす、という力点の置き方に差異がある。午前は「文法復習」「待遇表現」「接続表現」「統合日本語」「上級日本語」を必修科目とし、後期には「選択A」「選択B」という選択必修科目を「統合日本語Ⅱ」「上級日本語」と並行して実施した。午後は「総合運用」が1学期から3学期まで続き、4学期の午後は「プロジェクトワーク」を行った。

### 3 午前の必修科目 (Morning Session)

午前の必修科目では主として言語知識・言語項目に焦点をあてる。初級文法の復習や基本的な会話練習から開始し、待遇表現と接続表現を強固なものとしたのち、上級の日本語と呼ぶにふさわしい表現の拡充を図る。

#### 3-1 文法復習 (Japanese Grammar Review)

入学直後の1学期午前にはまず、中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させる。教科書として、当センター編集発行の市販教材 *An Introduction to Advanced Spoken Japanese* (略称A S J) あるいは当センターで作成した内部教材 *Japanese Grammar* (略称J G) のどちらか一方を、学生の日本語習熟度に応じて使い分けた。

また学生は予習に際して、印刷された教材だけではなく、当センター開発のコンピューターソフトウェアを利用し、文法項目のドリル練習と、会話の口慣らしにも励んだ。

2007-08年度は、1学期の第2週から第6週までテストも含めて合計21日間行った。

表1 前期（1～2学期）午前の内容

週	2007年 午前	月	火	水	木	金
1	9/3 - 9/7	入学説明会 写真撮影	筆記試験	所長面談	所長面談	CALL・SKIP オリエンテーション
2	9/10 - 9/14	<b>文法基礎</b> 試行クラス				
3	9/17 - 9/21	敬老の日				
4	9/24 - 9/28	秋分の日	<b>文法復習</b>			横浜の日 歴博 or 自然
5	10/1 - 10/5		A S J または J G			
6	10/8 - 10/12	体育の日				
7	10/15 - 10/19	<b>待遇表現</b>				
8	10/22 - 10/26					
9	10/29 - 11/2	秋休み 10月27日(土)～11月4日(日)				
10	11/5 - 11/9	<b>接続表現</b>				
11	11/12 - 11/16					
12	11/19 - 11/23			三溪園 ロータリークラブ		勤労感謝の日
13	11/26 - 11/30					(3学期説明会)
14	12/3 - 12/7	<b>統合日本語 I</b> Integrated Japanese Advanced Course I				
15	12/10 - 12/14					
16	12/17 - 12/21					個人面談 4 前期評価
17	12/24 - 12/29	冬休み 12月22日(土)～1月14日(月)				
18	12/31 - 1/4					
19	1/7 - 1/11					

表2 前期（1～2学期）午後の内容

週	2007年 午後	月	火	水	木	金
1	9/3 - 9/7	発話試験 所長面談	所長面談	所長面談	所長面談	個人面談1 入学祝賀会
2	9/10 - 9/14	漢字・発音 オリエンテーション	所長面談 文法復習がス説明	所長面談	防災訓練	個人面談2
3	9/17 - 9/21	敬老の日	(書道オリテ)			
4	9/24 - 9/28	秋分の日				横浜の日 歴博 or 自然
5	10/1 - 10/5	<b>総合運用 I</b>		<b>総合運用 I</b>		
6	10/8 - 10/12	体育の日	(書道開始)		講演会1 大山捨松の生涯	
7	10/15 - 10/19					
8	10/22 - 10/26					個人面談3 1学期評価
9	10/29 - 11/2	秋休み 10月27日(土)～11月4日(日)				
10	11/5 - 11/9					
11	11/12 - 11/16					
12	11/19 - 11/23			三溪園 ロータリークラブ		勤労感謝の日
13	11/26 - 11/30	<b>総合運用 II</b>				講演会2 ヨコハマメリー
14	12/3 - 12/7			(課外文楽教 室)	<b>総合運用 II</b>	
15	12/10 - 12/14				(課外就活講 座)	
16	12/17 - 12/21					忘年会
17	12/24 - 12/29	冬休み 12月22日(土)～1月14日(月)				
18	12/31 - 1/4					
19	1/7 - 1/11					

表3 後期（3～4学期）午前の内容

週	2008年 午前	月	火	水	木	金
20	1/14 - 1/18	成人の日	(所長年頭訓示)			
21	1/21 - 1/25				<b>選 択 A</b>	
22	1/28 - 2/1	<b>選 択 A</b>	<b>統 合 日 本 語 II</b>		文学	<b>選 択 B</b>
23	2/4 - 2/8		Integrated Japanese Advanced Course II		歴史 法律	スピーキング リスニング
24	2/11 - 2/15	建国記念の日	(4学期説明会)		美術史 政治・経済	リーディング ビジネス日本語
25	2/18 - 2/22				文化人類学	
26	2/25 - 2/29				専門分野別 校外学習	
27	3/3 - 3/7					個人面談 5 3学期評価
28 29	3/10 - 3/14 3/17 - 3/21	春休み 3/8(土)～3/23(日)				
30	3/24 - 3/28					
31	3/31 - 4/4	<b>選 択 A</b>			<b>選 択 A</b>	<b>選 択 B</b> スピーキング リスニング
32	4/7 - 4/11		<b>上 級 日 本 語</b>			ライティング 日本文化論 現代小説
33	4/14 - 4/18					
34	4/21 - 4/25	(卒業発表説明)				
35	4/28 - 5/2	ゴールデンウィーク休暇				
36	5/5 - 5/9	4/26(土)～5/6(火)				
37	5/12 - 5/16	<b>選 択 A</b>	<b>上 級 日 本 語</b>		<b>選 択 A</b>	<b>選 択 B</b>
38	5/19 - 5/23					
39	5/26 - 5/30	筆記試験 am 発話試験 pm	発表準備：授業なし自主的に発表の準備を進める			
40	6/2 - 6/6		<b>卒 業 発 表 会</b> クイーンズスクエア			個人面談 6 最終評価

表4 後期（3～4学期）午前の内容

週	2008年 午後	月	火	水	木	金
20	1/14 - 1/18	成人の日				
21	1/21 - 1/25					
22	1/28 - 2/1	総合運用Ⅲ			総合運用Ⅲ	
23	2/4 - 2/8				現代史 大衆文化	
24	2/11 - 2/15	建国記念の日			ビジネス社会	
25	2/18 - 2/22					
26	2/25 - 2/29				専門分野別 校外学習	
27	3/3 - 3/7	プロジェクト ワーク			プロジェクト ワーク	
28	3/10 - 3/14	春休み 3/8(土)～3/23(日)				
29	3/17 - 3/21					
30	3/24 - 3/28					
31	3/31 - 4/4					
32	4/7 - 4/11	プロジェクト ワーク			プロジェクト ワーク	
33	4/14 - 4/18			(課外講演会)	講演会3 G.カーティス	
34	4/21 - 4/25					
35	4/28 - 5/2	ゴールデンウィーク休暇 4/26(土)～5/6(火)				
36	5/5 - 5/9					
37	5/12 - 5/16	プロジェクト ワーク			プロジェクト ワーク	
38	5/19 - 5/23					
39	5/26 - 5/30	筆記試験 am 発話試験 pm	発表練習予備日 要予約		発表練習予備日 担当教員に事前予約し指導を受ける	
40	6/2 - 6/6	発表会場下見	卒業発表会 クイーンズスクエア			卒業式 卒業祝賀会

### 3-2 待遇表現 (Formal Expressions for Japanese Interaction)

この授業では、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。教材として当センターが作成した『待遇表現』（ジャパントイムズ社刊）を使い、それに準拠するソフトウェアを学生の予習用に提供した。

2007-08 年度は、1 学期の第 7～8 週に週 5 日の計 10 日間、および第 4 学期の「上級日本語」のうち 2 日間、合わせて 12 日間行った。

### 3-3 接続表現 (Conjunctive Expressions in Japanese)

接続詞に特に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方（複段落の作成）について指導した。使用教材は当センターが開発中の「接続表現」を用いた。

2007-08 年度は、2 学期の第 10～11 週の 10 日間をこの授業にあてた。なお学生の習熟程度に応じ、4 学期の「上級日本語」の枠内で接続表現の補強をしたクラスがある。

### 3-4 統合日本語 (IJ: Integrated Japanese Advanced Course)

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、独自開発教材『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。

2007-08 年度は、2 学期の第 12 週から第 16 週までの週 5 日計 22 日間で「統合日本語」上巻（第 1～3 課）を扱い、3 学期の第 20 週から第 27 週の週 2 日計 16 日間で「統合日本語」下巻（第 4～5 課）を扱った。

### 3-5 上級日本語 (AJ: Advanced Japanese)

2007-08 年度 4 学期授業期間 (第 30 ~ 38 週) の週 2 日火水を「上級日本語」と称し 15 日間をかけて日本語力の補強と拡充を目指した。まず最初の週 (第 30 週) の 2 日間で 1 学期に扱った「待遇表現」の補足と整理を行い、次の週 (第 31 週) 2 日間をミニ発表会にあてた。このミニ発表会は、前学期までに「統合日本語」などで学んだ知識・技能を整理しなおし、各学生が自己の到達点を把握するとともに、年間プログラム終了までの約 2 か月間をいかに有効に過ごすか、その自覚を促す契機と位置づけた。

第 32 週以降、標準的なクラスでは「対談・インタビュー」「評論」「論説」などの読み物素材を扱いながら、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。なお各クラスとも学生の到達度、興味、要望に応じて各種の補助教材を付け足しながら活発な授業運営を目指した。

## 4 午後の必修科目 (Afternoon Session 総合運用 I ~ III)

午後の必修科目「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指している。身近で日常的な話題から始まり (総合運用 I)、より広範な社会的話題へと発展し (総合運用 II)、さらに学習者の興味や関心に応じた話題の学習 (総合運用 III) へと進んだ。

### 4-1 総合運用 I (Applied Japanese Skills I)

既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供し運用力を高める訓練を積んだ。「経験談」「新聞入門」「ニュース入門」「新聞ニュース」というユニットからなり、自然な話し方に慣れるとともに、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得をねらいとする。2007-08 年度は、1 学期の



第3週から第8週まで合計18日間行った。

#### 4-2 総合運用Ⅱ (Applied Japanese Skills Ⅱ)

一般的な社会問題をめぐる生教材つまり読物と関連ビデオ（例えば報道番組）などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力を獲得させる。この総合運用Ⅱでは、話題シラバスのモジュール型教材群「ものづくり」「文化の発信」「外国人と国籍」「地球環境」「働く女性」「教育制度」「差別と人権」「若者たち」のなかから学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。

2007-08年度の授業日数は、2学期の第10週から第16週まで25日間であった。

#### 4-3 総合運用Ⅲ (Applied Japanese Skills Ⅲ)

「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」の3コースから学生は各自の専門や興味に応じて1コースを選択した。各コースとも、読物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。2007-08年度度は、3学期の第20週から第26週まで合計25日間行った。

##### 4-3-1 現代史 (Modern History)

ムービーフィルムが残されている1900年前後からの日本の歴史を、特に戦後を中心にビデオと読み物で概観した。「戦前の日本1900-45」「敗戦と復興1945-55」「高度成長1955-70」「現代の日本1970-95」などの話題を取り上げた。

##### 4-3-2 大衆文化 (Popular Culture)

広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになるこ

とを目標とした。「CM」「映画」「漫画」「文化政策」「伝統文化・古典芸能」などの話題を取り上げた。

#### 4-3-3 ビジネス・社会 (Business/Modern Society)

バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブルの前と後」「創業者」「通産省と大蔵省」「平成不況」「雇用制度」「系列」「マネーゲーム」などの話題を取り上げた。

### 5 後期の選択科目 (Second Half of Program, Elective Courses)

分野・技能別の各種コースを開設し、学生は各自の専門や、必要とする技能に応じてコースを選択した。選択A（週2回の必修選択）、選択B（週1回の必修選択）、選択C（週1回の自由選択）の3種類を開設した。

#### 5-1 選択A (Elective Course A)

3～4学期の午前週2回（月曜と木曜）各学生は、自己の専門領域に関連するコースを1つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する能力の育成に取り組んだ。6種の選択コース「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」を開設した。なお、これら6コースの授業内容については、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 2007年編『紀要』30号79～123頁の「日本研究センターにおける専門分野別日本語教育：日本関係の専門分野を有する大学院生・専門家に対する専門分野別内容重視アプローチの実践報告」で各担当者が詳述しているので参照されたい。

##### 5-1-1 文化人類学 (Cultural Anthropology)

文化人類学や社会学などのテキスト、また一般の雑誌記事、さらに実際の研究・調査報告などを素材として、現代日本社会について考えた。3学

期は、家族、現代宗教、ならびに社会を取りまく諸問題を扱った。4学期は各学生の専門や興味に応じて様々なテーマを扱いながら考察を深めた。

#### 5-1-2 政治経済 (Politics/Economics)

日本の政治と経済に関する基本的な知識と語彙を導入したのち、細分化した話題へと移行した。3学期は、日本の政治制度、構造改革、地方自治、国際関係、外交問題などの話題を扱った。4学期は、自由貿易協定 (FTA)、日米関係、企業情報 (株価や財務諸表)、企業と環境問題などを取り上げ、コース終盤には各学生による発表と意見交換の機会を設けた。

#### 5-1-3 美術史 (Art History)

明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、それをもとに話し合いを行った。美術という狭い分野に限らず、音楽や舞踊などの視覚・聴覚芸術なども包括的に扱った。

#### 5-1-4 文学 (Modern Literature)

明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、理解・鑑賞したのち話し合いを行った。おおむね2～3回で1作品を読んだ。文学を専門としない履修者にも配慮し、文学作品の理解・鑑賞・討論という形態にとらわれることなく、幅広い授業活動を柔軟に盛り込んだ。

#### 5-1-5 歴史 (History)

古代から近現代までの日本史上の諸トピックを取り上げ、日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ねた。まず通史概説書を利用して歴史学分野に必要な語彙・表現の習得を図った。この共有知識を踏まえ、各学生の個別テーマに関する論文の読解、発表と話し合いなどを実施した。また、一次史料を読む練習を定期的に組み込んだ。

### 5-1-6 法律 (Law)

日本の法律全般、特に憲法、民法（総則、債権論）、刑法、新会社法などについて、判例も扱いながら指導した。本年度は、条文の読解練習に力点を置くとともに、専門重要語彙の確認練習を積み重ねることにより、法律文書の理解力を伸張させた。また裁判員制度に関するドラマなど映像素材を扱ったり、裁判を実際に傍聴するなどの体験学習も組み込んだ。

### 5-2 選択B (Elective Course B)

選択Bでは日本語力の増強あるいは周辺分野の指導をした。2007-08年度は、3学期（第20～27週）に「スピーキングⅠ」「リスニングⅠ」「リーディング」「ビジネス日本語」の4種を開講し、4学期（第30～38週）には「スピーキングⅡ」「リスニングⅡ」「ライティング」「日本文化論」「現代小説」の5種を開講した。

#### 5-2-1 スピーキング (Speaking)

発話力伸張の訓練を行った。具体的な教室作業は学生の日本語習熟度や要望によりクラスごとに異なるが、次のような練習（のうちいくつか）に取り組んだ。①あらたまった状況、例えば大学院での演習場面を想定し、発表、司会、討論をする。その際、発表者は要旨と論点を事前に準備し当日資料を配付する。②1分間スピーチ、つまり要点を簡潔にまとめて話す練習。③敬語の使い分け、つまり様々な場面を想定しての役割練習。

#### 5-2-2 リスニング (Listening)

聞き取りの手がかり（音のくずれ、韻律の機能など）に言及しつつ、実際のテレビ番組、例えばニュースやニュース解説、教養番組、ドラマなどを素材にして、聞き取りの訓練を積み重ねた。昨年度より番組の録画・編集から学生への予習素材配布までデジタル化を開始、予習段階で精聴練習を課すことが可能となった。

### 5-2-3 リーディング (Reading)

精読の練習として「日本人論」などに関する評論文を素材に用いて論旨の展開を読み込む訓練を行った。また速読の練習素材として日本語能力試験の読解問題を用いた。「日本人論」に関して、読解内容にもとづく意見交換つまり発話活動との融合を望む学生の声も聞かれた。

### 5-2-4 ライティング (Writing)

随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の書き方と推敲の技術について考察した。

### 5-2-5 ビジネス日本語 (Business Japanese)

学生から就職活動をへて新社会人に移行する過程で遭遇する状況を設定し、役割練習を積み重ねながら発話力の伸張を図った。またビジネス場面で求められる予備知識の提供や、実務文書の読解技能伸張も図った。さらに受験者に見立てた学生をモデルに模擬就職面接を行い、各事例に即した解説を加えながら、実践的な指導をした(5-3-4「ビジネス」参照)。

### 5-2-6 日本文化論 (Japanology)

青木保著『日本文化論の変容』を素材とした。各学生が担当箇所を分担し、担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付したり、本文内容の理解不十分な点を確認しつつ、内容の濃い授業内容を目指した。

### 5-2-7 現代小説 (Contemporary Novel)

現在よく読まれている作家の短編小説を毎週1作品ずつ取り上げた。授業では予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、宮部みゆき、村上龍、川上弘美、綿谷り

さ、向田邦子、筒井康隆、などの短編を扱った。

### 5-3 選択C (Elective Course C)

自由選択コースとして「文語文法」「書道」「古筆」「ビジネス」の4種を開設した。「書道」のみ1学期から年間を通して実技指導を行い、ほかの3コースは後期から開始し講義形式を中心に、各分野の外部専門家が週1回指導した。4コースとも後期の授業は、3学期は放課後、4学期は昼の時間帯を利用した。

#### 5-3-1 文語文法 (Classical Japanese Grammar)

文語文法の基礎から指導し、古典の読解へと進んだ。3学期の授業は毎週月曜 15 時 15 分～ 16 時 45 分であったが、4学期は同 13 時 15 分～ 14 時 45 分に時間を変更した（両学期とも 90 分間授業）。指導には、国際基督教大学講師の金山泰子が当たった。

#### 5-3-2 書道 (Calligraphy)

書道の心得や筆の運び方などの基本から開始し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げるまでに至り、掛け軸に表装した作品は卒業発表会場に展示した。1～3学期は毎週火曜 15 時 15 分～ 16 時 45 分に開講し、4学期は毎週火曜 14 時 30 分～ 16 時 00 分に開講日時を変更した。講師は書家の小林絃子が担当した。

#### 5-3-3 古筆 (Classical Handwriting)

手書きの古典文献を理解するのに欠かせない古筆の読解練習を段階的に進めた。授業は、上記の書道と同じ書家の小林絃子が指導に当たり、書道クラス終了後の 60 分間ひと月に 3～4 回、3学期は火曜 16 時 45 分～ 17 時 45 分、4学期は火曜 16 時 00 分～ 17 時 00 分であった。

#### 5-3-4 ビジネス (Business)

「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯と今後の展望と課題について講義した。3学期の授業時間は毎週木曜 15 時 15 分～16 時 15 分、4学期は同 12 時 15 分～13 時 15 分であった。講師は浜銀総合研究所顧問の湧井敏雄が担当した。なお選択 B 「ビジネス日本語」と連携する形で、就職面接の実践指導も行った (5-2-5 「ビジネス日本語」参照)。

#### 5-4 プロジェクトワークと卒業発表 (Project Work and Final Presentation)

プロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員との一対一の指導形態のもと、実地の調査研究や文献の読解などを行った。

2007-08 年度は、第 27 週および第 30 週から第 38 週までを、この活動の正規の授業期間とし、第 39 週を予備週にあてた。予備の授業日まで活用した学生は合計 10 回の指導を受けることになった。

卒業発表会は、10 か月間にわたる学習を締めくくる催しである。各学生は、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め 1 人 15 分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。

卒業発表の題目一覧を表 5 に示す (学生名簿順)。プロジェクトワークの成果を卒業発表会で披露した学生が多かったが、プロジェクト以外の発表も 6 件あった。その 6 件については、一覧表の発表題目につづきプロジェクトワークの内容を「pw」として示した。

なお当センターのホームページでは 2007-08 年度も含め過去の卒業発表の要旨を公開してしてるので興味のある方はぜひ参照されたい。URL は [http://www.iucjapan.org/presentations\\_j.html](http://www.iucjapan.org/presentations_j.html) である。

表5 卒業発表題目 pwはプロジェクトワークの内容、学生名簿順

香月泰男：記憶と憧れ、苦悩と希望  
パブリック・ディプロマシー：日中関係進展の可能性  
気海丹田と禅宗における身心観  
一本道か岐路か？ 創価学会の平和主義的努力と日本の外交政策  
日本の新たな少数民族としてのフィリピン人  
澁澤龍彦『高丘親王航海記』  
『源氏物語』と『長恨歌』：「桐壺」の巻に現れる『長恨歌』の構造と楊貴妃の資質  
ジャンルによる翻訳とその落とし穴  
文化を伝える字幕：新たな翻訳法の誕生  
JICAと日系人社会  
成田治安法と最高裁大法廷判決  
明治時代の個人全集をめぐる問題  
政策としての地図：日本北辺における国境の画定  
日本児童文学に現れる色彩、自然、文化  
国際交流に配慮した街づくり：「アメリカ村」とそこから学ぶ課題  
衣装における江戸の女性美（pw江戸時代着物の「雛形」）  
日本語の文字体系における語彙階層レベルの作用  
倉橋由美子と身体恐怖  
日本における自殺（pw60年安保闘争）  
武満徹：音楽の哲学  
みなとみらいの大観覧車  
ガールズ・スタイル：F1層と映画マーケティング  
神奈川県介護施設の状況  
小川洋子と“女性の孤独”  
日本での就職活動：こんな私はどうすれば?!  
南京大虐殺と日本の歴史教科書



騎馬民族説再考 (pw 考古学研究)

昭和初期の大衆文化に於ける愛国表現

女流能楽師：伝統の再生の苦難

「こんなものでよかったら」 浅田次郎作品の翻訳過程とその教訓

「旅行」と帝国日本

夏目漱石『坑夫』：二重人格と近代主義

神仏習合への再訪 revisiting：新しい視覚文化論的なアプローチへ (pw 仏教美術史)

木曾義仲の盛衰にみる源平争乱 (pw 地方自治体の現状と政策)

技術大国の意外な弱点：日本ソフトウェア産業の実情

自然主義と坪内逍遙

隠れた需要：アメリカにおける日本の音楽

「外蕃通書」における家康とベトナムとの通信

日本のベンチャー企業環境：事実とイメージ ライブドア事件を事例として

中国の博物館と記念館：「被害者」の中国歴史観 (pw 日本の近代思想史)

国境を越えるイメージ：日本観光ポスターに現れる自己像

もし医療事故にあったら：日本の医療の現状

音楽の翻訳：近世日本人と西洋音楽との出会い

「せんたく」とは？

「雅集図」の魅力

## 6 通年で実施した学習指導と行事など

### 6-1 アドバイザー制と評価 (Advisory System and Evaluation)

学生 1 人に専任教員 1 名がアドバイザーとしてつき、年間を通して学習上および生活上の助言・指導をした。2007-08 年度 45 名の学生を 9 名の専任教員で分担し、各教員平均 5 名の学生を受け持った。

定期的な個人面談として、入学直後に 2 回そして各学期末に 4 回、合計 6 回の面談を年間の日程に組み込んだ。9 月初めの面談は診断的な評価であり、入学直後に実施した筆記試験（テープによる聴解試験を含む）と発話試験の結果を踏まえ 40 週にわたる学習の指針を示した。

1～3 学期末の個人面談は形成的な評価である。学生が履修したクラスを担当する教員の評価および学習上の問題点をまとめて、学生にフィードバックした。

各クラスでは、試験または試験に代わる小規模な発表、日々の小テストなどによって、学生の到達度・伸び具合を把握した。これらのテスト結果や、授業を担当する教員が日頃の観察から得た情報を、教員間で共有しあい、その後の指導に還元した。

4 学期末つまり年度末の個人面談は総括的な評価となる。年間コース終了直前に、入学時と同様の筆記試験・発話試験を実施し学習成果の客観的把握に役立てた。

アドバイザーは、担当学生の漢字プログラム（次節参照）の進捗状況を確認・促進する目的で週 1 回程度、漢字の読み方・発音指導などを行った。

### 6-2 漢字プログラム (スキップSKIP: Special Kanji Intensive Program)

常用漢字習得のためのプログラムである。自学用教材として当センター編集発行の市販教材 *Kanji in Context*（ジャパンタイムズ社刊）を用いた。漢字を単独で取り上げるのではなく、熟語、例文と共に学習する。学生は、ワークブックおよびコンピュータで独習し、翌朝クイズを受け、教材助手

が採点するという形で、それぞれの進度で学習が継続できる。卒業時まで  
に 1947 字（常用漢字＋2 字「誰」と「賂」）が習得できる標準日程を組  
み、各教室には「今週の漢字」を掲示し学習促進の一助とした。

### 6-3 講演会と行事 (Lectures and Other Educational Opportunities)

平日の授業時間帯に全学生を対象とする講演会を 3 回、校外学習を 2 回  
開催した。また、選択必修コースの授業の一環としてコースごとに実地見  
学におもむいたり、毎週金曜の放課後に映画を上映するなど、様々な学習  
機会を設けた。本年度の諸行事を実施順に表 6 の一覧にまとめた。

表 6 には、本センターの主催行事と、相手方の団体との共催行事、ある  
いは先方から招待を受け本センターが仲介した行事などを記載した。

## 7 おわりに

本センターの学生は 40 週間のうちに、日本に関連する専門的な研究や  
仕事が行えるよう、高度な日本語を習得しなければならない。各学生の専  
門分野は多岐にわたり、また日本語力のばらつきも小さくはない。日本語  
学習の総仕上げと、専門分野への橋渡しという、困難な使命が本センター  
に課されている。様々な学生の将来を見据えつつ、限られた時間と資源の  
なかで提供可能な最善の日本語学習環境を創出すべく、われわれ教職員一  
同は模索に挑み続けていきたいと考えている。

(まつもと たかし／アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター

言語課程主任)

## 表6 行事一覧

2007年

9月 7日(金) 入学祝賀会、横浜国際協力センター共用会議室にて

9月13日(木) 防災説明会、避難訓練

9月28日(金) 横浜の日～横浜市内における校外学習

横浜自然観察の森、神奈川県立歴史博物館、キリンビール工場

10月 5日(金) 映画「Always三丁目の夕日」鑑賞会、希望者対象

これ以降前期の毎週金曜に映画会を実施

10月11日(金) 講演会「最初の日本人女性留学生：大山捨松の生涯」

久野明子、日米協会理事

11月 2日(土) 横浜市立大学「浜大祭」参加、学生との交流会、希望者対象

11月21日(水) 国際文化交流会、三溪園にて、横浜ロータリークラブ招待

11月30日(金) 講演会「『ヨコハマメリー』を語る」中村高寛、映画監督

12月 1日(水) 掃部山能鑑賞会、横浜能楽堂にて、希望者招待

12月 5日(水) 文楽鑑賞教室、国立劇場にて、希望者対象

12月13日(木) 講演会「日本における就職活動の実態」希望者対象

カール・パイザー、情報テクノロジー(株)セールスマネージャー

12月21日(金) 忘年会、横浜国際協力センター共用会議室にて

2008年

2月19日(火) 大衆文化コース講演会「雅楽への招待」石川高、雅楽演奏家

2月28日(木) 専門分野別校外学習～選択Aコースごとの実地見学会

横浜中央図書館、横浜地方裁判所、国会議事堂

川崎大師、東京都立庭園美術館など

2月29日(金) 日本大学法学部ロックハイマー・ゼミナールとの交流会、希望者対象

4月 2日(水) お花見、新港パークにて、希望者対象

4月16日(水) 講演会「中国の経済発展と日中経済関係について」希望者対象

阿部宏忠、日本貿易振興機構貿易投資センター主査

4月17日(木) 講演会「政治と秋刀魚」ジェラルド・カーティス、コロンビア大学教授

4月18日(金) スピーキングコース制作映画試写会、3学期スピーキング履修学生主催

5月16～18日(金～日) 下田市主催「黒船祭り」参加、希望者招待

5月19日(月) 法律コース校外学習、最高裁判所、国会議事堂、靖国神社、皇居

6月 3～ 4日(火～水) 卒業発表会、みなとみらい21まちづくりプラザにて

6月 6日(金) 卒業式、卒業祝賀会、横浜国際協力センター共用会議室にて

